

平成26年度県立大学地域貢献研究の研究成果について（ **完了報告** ・ 中間報告 ）

研究テーマ	アジアにおける日本企業の産業競争力と国際分業の再編 －福井県企業のアジア事業展開の可能性を探る－
研究期間	平成 25 ～ 26 年度
主たる研究者	【学部・学科】 地域経済研究所 【職・氏名】 教授 丸屋 豊二郎
<p>○研究目的</p> <p>近年、アジア諸国の急激な経済発展で、アジアの経済地図は大きく塗り替えられようとしている。とくに韓国、台湾、中国などアジア企業の激しい追い上げに対して日本企業は高付加価値化・差別化で対応しようとしているが、それが望めない製品分野では、撤退あるいは他の国・地域への生産シフトを余儀なくされている日本企業も多い。企業間競争が激しさを増しているアジアにおいて自社製品の特性と競合関係及びアジア国際分業再編の動きと方向性を押さえておくことは、今後のアジア事業展開を考える日本企業にとって必要不可欠である。</p> <p>本研究事業では、福井県の代表的産業である繊維、機械、自動車を取り上げ、それぞれの生産工程別製品（素材、中間財、最終製品）について日本と韓国、台湾、中国の競合関係及びアジア生産ネットワーク再編の現状と今後のゆくえを明らかにする。同時に北陸（福井県）企業のアジア事業展開の可能性と方向性を探り、その研究成果を県内企業に発信するのが目的である。</p> <p>○研究成果</p> <p>本研究では、上記目的を達成するために繊維、機械、自動車の3産業について、3つの視点から分析している。まず、上記3産業について日本、韓国、台湾、中国の産業競争力とその源泉を概観するため、輸出財の比較優位構造から輸出競争力を算出したほか、貿易特化係数を用いて日本と韓国、台湾、中国の競争力比較を行った。2つ目は、北陸（福井県）企業及びアジア進出日系企業の事例調査をもとに、生産工程別製品の特性と競合関係及び企業立地と工程間分業について定性的な分析を試みた。3つ目は、アジア・グローバル企業のバリューチェーン展開に照準を当て、アジア国際分業の再編へ向けた動きを分析し、今後のゆくえを展望した。</p> <p>本研究事業の研究項目と実施した研究内容と成果（25, 26年度別）は下記のとおりである。</p> <p>(1) 日本・韓国・台湾・中国企業の輸出競争力とその源泉＜マクロ分析＞ 【25年度実施】</p> <p>①比較優位構造からみたアジア主要国・地域の輸出競争力</p> <p>②貿易特化係数でみた日本と韓国・台湾・中国の競争力比較</p> <p>25年度は、各産業について「RCA指数（顕示された比較優位指数）」と「日本の対韓・台・中貿易特化指数」の2つの指数を使って、2000年代以降の日本とアジア3か国の競争力を比較した。例えば、自動車では、日本の輸出競争力は依然強く、次いで韓国が日本を追いかけ国際競争力を持つまでに成長したが、台湾、中国は依然として競争力を持つに至っていない。一般機械については、日本は依然高い競争力を有するが、中国が激しくキャッチアップしている。繊維では、日本は1990年代から競争力が大きく後退しており、中国の独り勝ちの状況が最近まで続いている。ただ、日本は、素材、染加工において依然として強い競争力を持っている。なお、本研究成果は、＜参考資料：平25-④＞として発表した。</p>	

(2) 主要産業の生産工程別製品の特性と日本企業の競争力<マイクロ分析>

③主要産業の生産工程別製品の特性と競合関係【25年度実施】

④主要産業の工程間分業と生産立地—日本企業の製品別最適立地—【26年度実施】

日本企業の産業競争力に関する定量的分析を補完するために、アジアで事業を展開している北陸（福井県）企業へのインタビュー調査をもとに、北陸企業の国際（アジア）化への対応、北陸企業・産地の特性（強み）と今後のアジア化戦略、それを実現するための課題を繊維と機械（産業機械）について定性的分析を行った。

北陸（福井県）企業は、繊維、機械ともアジア勢のキャッチアップに対して高付加価値化・製品差別化で対応する一方、繊維では、非衣料・非繊維への事業領域の拡大と一貫生産体制（垂直統合）による国際競争力強化へ向けた企業間（内）連携の動きも活発化している。また産業機械では、競争にさらされている低価格帯市場にエントリーモデルを導入するなど両刀構えの動きも散見される。直面する課題としては、両産業ともマーケティングの強化とグローバル人材の確保・育成を挙げる企業が多かった。なお、本研究成果は、<参考資料：平25-②、③、平26-②>として発表した。

また、平成26年度は、AFTAの完成と拡大メコン経済圏（GMS）のインフラ整備に伴うASEAN域内の工程間分業と企業立地を巡る最近の動きを紹介し、今後の課題と進むべき方向性を提示した。本研究成果は、<参考資料：平25-⑤、⑥、⑦、平26-⑤、⑦、⑨>として発表した。

(3) アジア・グローバル企業の動きとアジア生産分業の再編

⑤リスク分散・広域FTAの形成とアジア・グローバル企業の動き【25年度実施】

⑥アジアの産業集積とアジア生産ネットワークの再編【26年度実施】

⑦福井県企業のアジア事業展開の可能性と方向性【26年度実施】

2000年以降、アジア経済は高成長に伴う所得上昇で、アジアの経済・産業地図は大きく塗り替えられようとしている。中国などアジア新興国・地域の台頭が顕著になる一方で、人件費の上昇や労働力不足などの経済リスクのほか、経済格差や汚職・腐敗など社会、政治リスクも高まっており、アジアのグローバル企業はこうしたリスクを回避するための分散化投資を活発化させている。また、アジア広域経済連携の進展は、アジアのグローバル企業のバリューチェーンにも大きな影響を与え、アジアの産業集積や生産ネットワークの再編を促している。

こうした現状を踏まえ、今後を展望すると次のように要約される。

まず、日本を含むグローバル企業のアジア投資は、現在の「市場開拓」と「コスト削減」に、「リスク分散」を加えた3つの観点から、工程別に最適配置される方向へとシフトする。したがって、アジアの産業集積も同一業種で複数、アジアに新たに形成され、アジア生産ネットワークも複雑で、かつフレキシブルなものへと移行し、工程間分業もいっそう成熟、深化し、アジア諸国の経済成長に貢献する。

こうしたアジア国際分業の再編は、日本企業にとっても望ましいことである。中国など新興国経済が高度化することで、日本企業のビジネスチャンスは拡大する。例えば、人件費上昇や労働力不足は高品質な機械設備に取って代わり、日本製機械設備への需要が高まる。同様に人件費の上昇で消費者の所得水準が上昇すれば、高品質かつ安心、安全な日本製品への需要も高まる。また、現在進行中の日本企業などアジア・グローバル企業のASEANシフトは2016年を過ぎると、再び中国向けとASEAN向けが拮抗する状況へ戻ることが予想される。

最後にアジア経済を展望すると、長期的には、これまでと比べて成長率はやや低下するが、これまでどおり世界経済をけん引することが見込まれる。ただし、アジアの成長の重点は、アジアNIES、中国、タイ、ベトナムから、インドネシア、マレーシア、フィリピン、インドなどへ徐々にシフトする方向にある。

なお、この研究成果は、<平25-①、平26-①、③、④、⑥、⑧>として取りまとめた。

※ホームページ掲載用として使用するため、A4 2枚程度で簡潔にまとめてください。

参考資料（図、写真等）があれば添付してください。

平成26年度県立大学地域貢献研究
研究成果の発信状況（完了報告）

<平成26年度>

(1) 発表した図書、雑誌

<丸屋豊二郎>

- ①「変貌するアジア経済と日本企業の対応」（『変貌するアジアと域内経済協力』、福井県 大学連携リーグ双書V、2015年3月）
- ②「北陸企業の国際化とアジア事業展開」（坂田幹男・唱新編『東アジア新興市場と地場産業』、晃洋書房、2015年2月）
- ③「日本企業のアジア事業展開の再編」（『ふくい地域経済研究』、第19号、福井県立大学地域経済研究所、2014年10月）

<春日尚雄>

- ④『ASEAN シフトが進む日系企業—統合一体化するメコン地域—』（単著）、文眞堂、全212ページ、2014年9月。
- ⑤「拡大メコン経済圏（GMS）における越境交通網整備と企業立地」（坂田幹男・唱新編著『東アジア新興市場圏と地場産業』、晃洋書房、2015年2月）
- ⑥「ASEAN シフトとタイの政治経済情勢」（『変貌するアジアと域内経済協力』、福井県 大学連携リーグ双書V、2015年3月）
- ⑦「AFTA の完成と ASEAN 域内企業立地の再編成—ベトナムトヨタの悩ましい「2018年問題」—」（『フラッシュ 208』、国際貿易投資研究所、2014年9月）
- ⑧「日本、中国による対 ASEAN 直接投資動向」（『国際アジア共同体ジャーナル』、2014年第3号・第4号合併号、国際アジア共同体学会、pp.99-102）
- ⑨「ASEAN 地域統合と企業立地」（『ふくい地域経済研究』第19号、福井県立大学地域経済研究所、2014年11月）

(2) シンポジウム、セミナー、講演会

- ・シンポジウムの企画・参加：北陸AJEC、ジェトロ・アジア経済研究所との共同開催

テーマ：「グローバル化時代の北陸地域・企業の進路と戦略

～ASEAN とどう向き合っていくか～」【別添チラシ参照】

日 時：2014年10月16日13：30～18：30

会 場：ホテルフジタ福井

参加者：102人（アジアビジネスに関心のある県内企業関係者等）

概 要：北陸企業のASEAN戦略について、ジェトロ・アジア経済研究所と北陸三県を代表する企業によるパネルディスカッション

- ・福井県大学連携リーグ連携企画講座『変貌するアジアと域内経済協力』（於：於:AOSSA 福井市地域交流プラザ）の企画・講演

①5月26日「変貌するアジアと日本再興」（丸屋）

②6月4日「ASEAN シフトとタイの政治経済情勢」（春日）

- ・『アジア経済フォーラム』（福井商工会議所）での講演

テーマ「日本企業のアジア事業展開の再編」（丸屋：2015年2月26日）

・その他

- ・2014 年度 福井県立高志高校スーパー・グローバル・ハイスクール (SGH) 「グローバル探究」連携授業、課題研究指導を担当 (春日)
- ・福井県立武生東高校「グローバル語り部派遣事業」授業担当 (春日 2014 年 12 月)
- ・敦賀商工会議所海外ビジネス振興会「全体会」にて講演 (春日 : 2015 年 1 月)

(3) 新聞、テレビ、WEB など

- ・福井新聞『アジアの風』(連載)
 - ・5 月 24 日「中国市場衰えぬ魅力 ー繊維販路開拓の動きー」(丸屋)
 - ・7 月 12 日「タイーカンボジア国境のポイペトー新進出要所ー」(春日)
 - ・9 月 13 日「中国内需向け投資回復 ー日本のソフト力台頭ー」(丸屋)
 - ・9 月 26 日「ベトナムトヨタに 2018 年問題 ー現地生産の行方注視ー」(春日)
 - ・12 月 6 日「傷むラオス基幹道路 ー過積載で補修不可欠ー」(春日)
 - ・12 月 27 日「タイで日本産リンゴ人気 ー高価でも品質に信頼ー」(春日)
- ・FBC ラジオ『ようこそ県大研究室』

<平成 25 年度>

(1) 発表した雑誌、図書

<丸屋豊二郎>

- ①「躍進・変貌するアジア経済ー中国、ASEAN、インド経済の現状と展望ー」(北陸環日本海経済交流促進協議会『Warm TOPIC』Vol. 112、2013 年 7 月号)
- ②「北陸企業の国際化の実態と政策課題ー北陸 AJEC・北経連アンケート調査からー」(共著) (『ASEAN 経済の動向と北陸企業の適応戦略』北陸環日本海経済交流促進協議会・日本貿易振興機構、2014 年 3 月)
- ③「北陸経済の国際化の現状と主要産業の国際展開ー事例研究を踏まえてー」(共著) (『ASEAN 経済の動向と北陸企業の適応戦略』北陸環日本海経済交流促進協議会・日本貿易振興機構、2014 年 3 月)
- ④「比較優位構造からみた日本、韓国、台湾、中国の産業競争力」(講演会等で資料として提供、近々、改訂版を公表する)

<春日尚雄>

- ⑤「ASEAN 連結性の強化と交通・運輸分野の改善ーASEAN 経済共同体 (AEC) に向けた取り組みの柱としてー」(共著、石川幸一・清水一史・助川成也編著『ASEAN 経済共同体と日本』文眞堂、2013 年 12 月)
- ⑥「ASEAN 経済共同体 (AEC) とエネルギー協力ー持続的成長を可能にするためにー」(共著、石川幸一・清水一史・助川成也編著『ASEAN 経済共同体と日本』文眞堂、2013 年 12 月)
- ⑦「メコン地域開発によるインフラ整備と ASEAN 連結性の強化」(『海外事情』2013 年 12 月号、拓殖大学海外事情研究所)

(2) 学会報告・講演

<丸屋豊二郎>

- ・「アジアの世紀の到来と日本」(福井県大学連携リーグ連携企画講座『躍進するアジアと日本の対応』、2013 年 5 月 29 日)
- ・「習近平新政権の経済路線と日中経済関係」(日本大学生物資源科学部、2013 年 6 月 10 日)「アジア経済の現状と展望」(福井県港湾協会『港湾講演会』、2013 年 8 月 27 日)
- ・「躍進するアジア経済の現状と展望」(敦賀商工会議所『海外ビジネス振興会』、2013 年 10 月 22 日)

- ・「変貌するアジア経済と日本企業の対応」（日本機械輸出組合『北陸懇談会』、2014年1月30日）

<春日尚雄>

- ・「日本、中国による対ASEAN直接投資動向—CLM3カ国への投資をめぐる両国の相違—」国際アジア共同体学会第7回学術研究大会、学会研究報告、2013年11月3日、於福井商工会議所。
- ・「日系企業進出先として再評価されるASEANとタイ」、福井県大学連携リーグ連携企画講座『躍進するアジアと日本の対応』、2013年6月12日、於AOSSA福井市地域交流プラザ。

(3) 新聞・TV、WEBなど

<丸屋豊二郎>

- ・福井新聞『アジアの風』への投稿（2013年4回）
- ・「中国のモノづくりの実力」（ふくい産業支援センター『F-ACT』、Vol. 1、2013年6月25日）
- ・「日本企業 ASEAN進出の実態」（ふくい産業支援センター『F-ACT』、Vol. 4、2013年12月25日）

<春日尚雄>

- ・福井新聞『アジアの風』への投稿（2013年2回、6月、10月）
- ・「アジア市場の拡大とASEAN」（ふくい産業支援センター『F-ACT』Vol. 3、2013年10月25日）

以上